

入学者のことば

入学者のことば

歯学科1年 大野 晴 日



あれだけ地元の大学には進学したくない!! 県外へ進学したい!! と、思っていた1年前の今頃は、まさか新潟大学歯学部に進学するとは思ってもみませんでした。しかし、思い起こして

みれば、高校在学時に受験先を最終決定するきっかけが私にはありました。高校のカリキュラムの一環で新潟大学歯学部のオープンキャンパスに参加しました。実際にプラスチックの模型の臼歯を削る体験や口腔リハビリテーションに関する講義を受けて、超高齢化社会において益々重要となる、QOLの向上に対する歯科保健医療の役割についてお話をお聞きすることができました。この経験が受験先決定の一番の理由となるとともに、将来歯科医師として地元である新潟の人々の健康長寿の実現のために貢献していきたいという目標となりました。

部活動では大学生を機にずっと挑戦してみたかった弓道部に所属しました。なかなか上手いかないこともありますが、先輩方にも恵まれ丁寧に指導していただいています。今年新潟で開催されるデンタルに向けて、とても楽しく練習に励んでいます。

大学生活が始まって数ヶ月がたち、五十嵐キャンパスでの授業にもすっかり慣れてきたと思っていたら、あっという間にテストに追われる時期になり一学期が終わりそうなので驚きです。1年生の授業はGコード科目ばかりため、歯学部生になったという実感は湧かないのではないかと思います。しかし、いざ早期臨床実習で白衣を着て外来での実際に患者さんに付き添わせていた

だくことや、様々な専門の科の見学を通してこれからの6年間を通して、歯科医師を目指すという意思が固まりました。

歯学部は他学部とは異なり、同じ学部生との繋がりが卒業しても強い学部です。1年生は赤塚での合宿や運動会を通してすいぶん仲が深まりました。これからの5年間、ないしは3年間は今以上に困難な問題に立ち向かうことになると思います。支えてくださる家族や先生方への感謝の気持ちを忘れずに、共に切磋琢磨して行きたいと思います。

入学者のことば

歯学科1年 酒井 佑 樹



私が新潟大学歯学部に入學して、早いものでもう3カ月が経ちました。新潟に来てからの3カ月間はとても中身の濃いもので、新潟という慣れない土地での一人暮らしなど、様々なこと

にあたふたしたことや、4月の入学式後すぐに海で友人たちと大はしゃぎしたことなどが今ではもう、ずっと昔のことのようによろしく思えます。

歯学部に入學したとはいえ、まだ何も知らない私にとって、早期臨床実習は大きな刺激になりました。実際に白衣を着て院内の様々な科を回り、見学をさせていただきました。想像以上に数多くの科があり、どの科でも先生方が全力で患者さんに向かっていました。中でも、私は口腔再建外科・顎顔面口腔外科を見学し、口唇口蓋裂のお子さんの症例を見させていただいた際、「お子さんがショックを受けるよりも母親が自分を責めてしまうことがある。」と先生からお聞きした時に私は、歯科治療は患者さんを治療して治すだけでは

なくて、治療を通して患者さんの周りの方まで救うことのできるものなのだと、はっとさせられました。すべてのことが新鮮で、自分の入学した学部にはこんなにも多くの学ぶことがあるのかとわくわくすると同時に、さらに身の引き締まる思いがしました。

私は医歯学合同のソフトテニス部に入学しました。先輩方はみんな優しく、強い向上心を持って練習が行われているので、部活が本当に楽しいです。医歯学合同なので医学科の人や、看護学科の人など歯学部とは違う様々な人と触れ合うきっかけとなったことも私にとっては大きな財産です。

最後に、歯学部1学年は総勢約60人という他学部比べて小さい学部です。しかしその分、皆との距離も近く、協力し合えるいい学部だと感じています。今後5年間、または3年間共に大学生生活を過ごしていく中で様々なことがあると思いますが、1学年のこのメンバーならどんなことでも乗り越えられると確信しています。自分たちの将来に向けて、互いに切磋琢磨し、励まし合いながら、これからの大学生活を充実した素晴らしいものにしていきたいと思っています。

大学に入学して

口腔生命福祉学科1年 小松彩夏



口腔生命福祉学科に入学してあっという間に3か月が経ちました。入学してから現在までに様々なことがありました。まず合格発表を終え、すぐに新入生のオリエンテーションに参加しました。学科内に同じ高校出身の人がいない状況で、なかなか人に話しかけることができず、これから友達を作ることができるのか不安でいっぱいでした。しかし、歯学部の合宿などで交流した人たちと、その後の講義や休み時間などでよく顔を合わせるうちに自然に集うようになりました。今ではかなり友達が増えています。また、高校までと授業形式の違う大学の講義にも少しずつですが

慣れてきて、気持ちに余裕ができつつあります。ただ、初めての試験も近くなり、単位が取れるか不安な気持ちでいっぱいですが、頑張っていこうと思います。

また、私は医学部合唱団に入団しました。入団のきっかけは高校の先輩からの誘いでした。しかし、合唱団の中には歯学部の人一人もいなかったため、少し不安でした。入団したあとも、練習場所が医学部の建物内であるなど慣れないことも多く、緊張の連続でした。しかし、医学部の優しい先輩方が話しかけてくださったり、学部を越えた同期のみんなとの雑談もできたりして、徐々に部活にも馴染めてきました。今ではこの部活に入団して本当によかったと思います。来年度からは歯学部からの入団者が増えるように勧誘活動を頑張りたいです。

さて、私は大学入学前から研究の道に進みたいと思っていました。今でも研究に対する興味は尽きず、大学院に進学したいと思っています。今は入学前から興味を持っていた嚥下の分野や、この間の新聞に掲載されていた歯周病と糖尿病の関係についての分野に特に興味を持っています。口腔生命福祉学科の学生でも大学院へ進学できるとお聞きしたので、ぜひとも進学したいと思います。そのためには、教養科目も含めこれから学ぶすべての講義で一生懸命に勉強して、学んだ知識を頭に刻み込んでいきたいと思っています。

入学者のことば

口腔生命福祉学科1年 吉田萌乃

他県出身である私は、新潟大学に入学してすぐの頃、人数の少ない学科の中で友達ができるかどうかや、大学での勉強法、履修登録はしっかりできるのかなど、たくさんの不安を感じていました。しかし、自分と同じように寮に住んでいる学科の子が数人おり、その子たちと仲良くなれたので履修登録などの不安もなくなりました。

また、4月にあった歯学部の合宿では同じ学科の子でまだ話していなかった子たちとも仲良くなれたし、歯学科の子たちとも話す機会があり、そ

ここで改めてこの歯学部の中かで頑張っていこうと思いました。

毎週金曜の早期臨床実習では患者役実習、見学実習、患者付き添い実習を経験しました。まだ1年生の私は使う器具の名前やしている処置の方法などわからないことだらけでしたが、見学実習では治療室での歯科医と歯科衛生士の動きや、患者さんとの接し方など雰囲気をつかむことができました。患者役実習では自分が患者側になることで普段患者さんがどのように感じているのか、どのように治療されているのかなどがわかりました。患者付き添い実習では、病院のなかを案内することで自分も病院内の設備を理解することができました。知識がまだないことで、より患者さんに近い立場でいろんなことを感じることもできたのはとてもいい経験になりました。

それから私は大学生生活を送るうえで部活動やサークル活動も楽しみにしていました。中学、高校とソフトボール部に所属していた私は歯学部野球部に入り、マネージャーをしています。マネージャーは初めて経験することですが、先輩方はみんなとても優しいし、大好きな野球に関わることができるので毎週の部活はとても楽しいです。

新しい環境での大学生生活は大変な時もありますが、とても充実した毎日を送っています。大学生生活の4年間を無駄にせず、専門知識を学ぶことはもちろん、さまざまなことを経験して、自分の目指す歯科衛生士になれるようにしたいです。

入学者のことば

う蝕学分野
大学院1年 枝 並 直 樹

今年度より、新潟大学大学院医歯学総合研究科、う蝕学分野に入学しました枝並直樹です。私は43期生として2013年に新潟大学歯学部を卒業しました。研修は東京医科歯科大学で行っていただいたので、2013年3月：新潟大学歯学部卒業、4月から9月：東京医科歯科大学、10月から3月：井荻歯科医院（研修協力型施設）、2014年4月から現在：新潟大学う蝕学分野と短期間にころころと場所を変えて勉強させていただいています。

う蝕学分野への入学は学生の時から興味を持っていました。東京での研修医生活を経験し、やはり出身大学で、腰を据えて勉強、研修を積むことが自分にとって一番合っていると思い、学生時代よりお世話になっておりました重谷佳見先生に連絡をし、入学させていただくこととなりました。

いざ大学院生活をスタートすると、すぐに様々な問題点に悩まされました。新潟大学にお世話になっていなかった1年間の間に、病院外来は一新され、学部棟に関しても改築により教室、研究室の場所が大きく変わってしまっていました。不安の中でスタートした大学院生活でしたが、優しく気遣ってくれる先生方、大学院の先輩方に助けていただきなんとか4ヶ月を過ぎようとしています。

大学院ではこれまでに経験してこなかった「研究」が加わり、ゼロからのスタートでわからないことばかりですが、全く新しいことを始めるということは非常に刺激になっています。

臨床においても数年多く経験を積んでいる大学院の先生方、あるいは、逆に1年少ない研修医と一緒に臨床を行うことにより、「来年は今のこの先生と同じようにできなければいけない」あるいは「自分よりキャリアの短い研修医には抜かれないようにしなければいけない」といった緊張感がとてもモチベーションにつながっています。

まだまだ始まったばかりの大学院生活ですが、進路として良い選択ができたと思っています。大学院卒業時、あるいは、何十年後に思い返した時、重要な4年間だったと思えるように、これから有意義な時間を過ごせるよう努力していきたいと思っています。



入学者のことば

歯周診断再建学分野 佐藤 圭 祐
大学院 1年



「大学院はブラック企業？サービス残業は当たり前？」今クール火曜日に放送されていた某テレビドラマを見ながら考える。ブラック企業の社長の実態をえがいたこのドラマ。世間からはブラック企業と揶揄されているが、社員はやりがいをもって働いている、そのギャップが面白い。そもそもブラック企業とは主観的な考えであり、外部の人間があれこれ言うことは良くないと私は思う。例えば、同じ仕事をしていてもやりがいがあると感じる人もいれば、ブラックだと感じる人もいる。大切なのは今の仕事が好きかどうか、やりがいを感じるかどうかだ。

私の場合はどうだろう。今年度より新潟大学歯学総合研究科、歯周診断再建学分野の大学院に進学した。最初の1ヶ月は慣れない研究、思い通りにいかない自分の診療、やりたいけど何もできない自分に腹が立ち、お酒に逃げる毎日を送っていた。しかし、できることが少しずつ増えていく中で、今の仕事、勉強にサビ残ではないやりがいを感じ始めている。

「お前たちはこのボールペンだ。書くために使われて、インクがなくなれば使い捨てられる。お前たちに付加価値はあるか？お前たちにはいくらの価値がある？」ドラマの中でブラック社長が学生たちに問いかける。人間の価値を評価するのは他人であり、それはあくまでも客観的な意見だ。数多い歯科医師の中でどのように他との差別化を図っていくか。歯科医師というベースに付加価値をつけることの重要性、必要性を感じる。

大学院で得ることできる学位、歯周病認定医などの資格は、患者さんにも理解されやすい魅力的な付加価値だと思う。しかし、付ける価値ではなく身につける価値というものも存在すると私は感じる。それは、広い視野で物事を考えることであったり、患者さんへの対応の1つ1つであった

り、広い交友関係であったり…。

歯科医師として今の自分にどれほどの価値があるか。そして、そこにどんな付加価値をつけていく（身につける）ことができるのか。大学院での生活を通して確かめていきたい。

入学者のことば

口腔生命福祉学専攻 高橋 明 恵
博士前期課程 1年



4月より、口腔生命福祉学専攻博士前期課程に入学致しました。4月7日に朱鷺メッセで行われた入学式にも出席し、これからこの大学で学んでいくのだなあと身の引き締まる思いでし

た。

そしてそれから、早3か月が経ちました。学生生活は20数年ぶりです。あまりに久しぶりの学生生活で大学のシステムなど戸惑いもありましたが、同期の人達やご指導くださる先生方のもと充実した学生生活を送っております。

大学からもメールを通じ、様々な情報が配信されてきます。学びたい気持ちがあれば、環境は整っているのだなあと日々感じます。この様な素晴らしい環境で学べることを感謝しながら勉強に励みたいと思います。

私たちの学年はすべて社会人学生です。顔を合わせる機会は少ないのですが、それぞれの勤務の都合を合わせての集中講義などで、たまに会うことができます。講義ではそれぞれが今後活かそうという姿勢が感じられ、質問内容もより現場に即した内容の質問などが出され刺激にもなります。

私自身も授業に取り組む姿勢や気持ちは明らかに、20数年前の学生時代とは違っています。今の気持ちや姿勢が若いときにもあったなら…後悔先に立たずです。

研究は以前の勤務に関係のある、小学校での歯科健康教育について取り組んでいます。現場で感じていた日々の疑問や課題も多くあります。それ

らについて、ひとつひとつ検証しながら進めていきたいと思っています。行き詰まることも多いのですが、新たな視点で先生からご指導やご助言をいただくことも多々あり、また頑張ろうという気持ちになります。

歯科衛生士は今、多職種と連携を取りながら専門性を活かすことが求められています。

時代が求める役割を踏まえ、さらに前進して行けるよう頑張っていきます。

今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくおねがい致します。

大学院に入学して

口腔生命福祉学専攻 坂本 まゆみ
博士後期課程 1年



人との出会いは、楽しくまた自分が成長できる機会でもあると思っています。

私は4月に社会人大学院生として入学しました。歯科衛生士として歯科医院やリハビリテーション病院などの臨床経験を経て、3年前より高知県で唯一の歯科衛生士養成の短期大学に勤務しています。大学院に入学したとはいえ、900キロ離れた遠隔地から受講参加しています。本当は、自分が学生として再びキャンパス生活を楽しまたい！学生に戻りたい！という思いは妄想にとどめて…しかし、

その妄想をする暇もなく日々の業務に追われているのが現状です。

社会人大学院生のほとんどは、仕事時間外にレポート課題をこなしている面では、遠隔地も同じ条件ですが、気持ちに余裕がなく不安ばかりが先行します。入学前も不安でしたが、それでも入学したいと考えたのは、口腔生命福祉学専攻の特色である“摂食や口腔機能や食介護に関すること、口腔を中心とした生命医療科学を基盤としながら、保健・医療と社会福祉学領域と学際的研究を推進できる指導的教育研究者及び地域・国際社会において指導的役割を果たせる高度専門職業人を養成する”というところに魅かれました。

私が今まで歩んできた内容を形あるものとして、また私自身に不足している「根拠をもって」というところも研究を進めることで、教育の現場にも還元できるという思いがありました。もう一つ、本大学院を卒業された他県の歯科衛生士養成学校の教員からも、心強い後押しがあり手厚くご指導していただけるとも伺い決めました。確かに、レポート課題や多くの論文などに圧倒されて四苦八苦してうまくいきませんが、周囲の理解や今まで出会った方々の温かい励ましの言葉・お顔などが浮かぶと、くじけずぶれないよう自分に言い聞かせています。

“自分には難しいと思えることにも挑戦する”をモットーに、苦しいことも楽しむ気持ちで、少しでも将来の形が見えてくるよう邁進していきたいと思っています。

